

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470201177
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム 横浜菅田
訪問調査日	平成19年12月21日
評価確定日	平成20年2月20日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 1月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	第1470201177号
法人名	メディカル・ケア・サービス 株式会社
事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田
所在地	横浜市神奈川区菅田町2975-75 (電 話) 045-488-6280

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵠沼橋1 - 2 - 4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年12月21日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18人		
職員数	14人	常勤 10人	非常勤 4人	常勤換算 11.4人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄骨造ALCタイル張り) 造り
	2 階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	82,000 円		その他の経費(月額)	48,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000 円		有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円	
	夕食	300 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要 日付を入力

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低 57 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人財団 慈啓会 大口東総合病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、閑静な日あたりのよい高台に位置しています。吹き抜けの中庭を囲んで広い回廊が設けられ、雨天の日でも個々のペースを尊重した歩行が可能で、身体機能維持に配慮した構造になっています。その人らしい快適で穏やかな暮らしを尊重し、やりたいこと、できることに寄り添うケアをしています。地域との連携、とりわけ隣接する県立高校との交流はホームの緊急時のサポート体制の鍵のひとつであり、職員の努力が実りつつあります。提携する医療機関も数箇所あり、使い分けができることはこのホームの強みでもあります。職員の明るく前向きな姿勢と、親切が感じられますが、研修の機会が増えればこのホームの更なる発展にもつながると思われます。このホームは、全国に多数の施設を展開している法人の豊富なノウハウのもとにしっかりと管理運営を行っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 人材育成による体制強化をめざす職員の計画的な研修は、必要性を感じながら一部の職員以外は実行に移されていません。前回評価をきっかけに「運営推進会議」をスタートさせた意義は大きいと言えます。そのことを通じて、地域との協力のあり方の展望が開けつつあります。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は、現状を見つめ直すことができる点で、自己評価の意義は大きいと認識しています。但し、自己評価の共有化や評価を活かした具体的な取り組みによる改善は、今後の課題と受け止めています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 立地条件により孤立しがちなホームの実情を、隣接高校の校長や自治会長、利用者ご家族、職員、そして包括支援センターを含めて協議された。とくに、道路の街灯を増やすことで職員の安全や新規の職員応募者にもつながることと判断しました。転倒防止のためにも手すりなどをどのようにつけるか、また災害時の特に2階の救援体制に課題があることが分かりました。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月定期的に、利用者個々の暮らしぶりや健康状態を「ご報告書」に記載し、金銭出納記録と共に、家族に郵送で報告しています。アンケート、ご意見箱の設置、面会や行事の来訪時にコミュニケーションを図る等、家族が相談しやすい体制を整え対応しています。家族が職員の異動に敏感に反応するので、職員は、利用者との早期のなじみの関係づくりを図り、ケアの質は変わらないことの理解が得られるよう努めています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域とのつながりを保つべく、職員は、GHの立地条件からくる困難を克服しようと努めています。隣接する高校との交流について、理解や共感を得ていることは高く評価できます。隣の家主の協力も得られています。職員はGH周辺の道路の清掃等を通じて地域にアピールする努力を重ねています。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます」という理念の項目について、実現に努めて工夫している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、一同で理念を唱和して確認して実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺の道路の掃除等をして地域との交流をつくる努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価の結果を内部で検討し改善に努めている。外部評価の評価項目を参考に、改善を重ねている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの周りの道路事情や街灯の少なさ、ホームの構造と転倒を防ぐ手すりのとりつけについての課題の確認など、利用者家族、自治会、近隣の学校関係者を含めた意見交換を行うことができています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの所在地が、町と町の境界にあり、地域との連携がとりにくい事があるので、行政の積極的な関わりを求めている。運営推進会議に出席した地域包括支援センターのオブザーバーから、事故防止に関する貴重なアドバイスを得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に、利用者個々の暮らしぶりや健康状態、行事予定、職員の異動等を「ご報告書」に記載し、ケア記録、金銭出納帳のコピーと共に家族に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・要望窓口のお知らせ、アンケート、ご意見箱等を設けている。家族が面会、行事の来訪時に、職員は率直に不満、苦情を受けとめ、迅速な対応に努めている。月1回のスタッフ会議で検討し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族は、職員の異動、離職に敏感に反応し、不安を抱きやすい。職員はフォローすると共に利用者との早期の馴染みの関係づくりに努め、本人と家族に安心していただくようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員の離職が続き、計画的な研修の必要性を認識しながら、人手不足を懸念して実行できない状況にある。計画作成担当者の受講記録、報告はあるが、新人はOJTでの育成が主体となっている。		各職員が、段階に応じて計画的な研修により育成され、質の向上と職場への帰属意識が高まることが期待されます。管理者は必要な研修の受講を優先することがのぞまれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者交流の機会は、現段階ではない。管理者は、仲間の勉強会、法人情報やグループホーム連絡協議会への参加等により、サービス向上と連携意識を維持している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の入居前の情報収集と入居後1～2ヶ月は、家族と密に連絡をとりながら、利用者が場の雰囲気に馴染めるよう相談し、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は絶えず、利用者のペースを尊重しながら、会話や回想法等で共に過ごすことを楽しんでいる。料理の味付けや花、手作りの飾り物等、経験からの知恵や工夫を学び支えあう関係を意識している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居1～2ヶ月の本人の意向の把握や観察を重視している。家族から生育歴やなじみ、好みの情報を得て、その人らしさの把握に努めている。法人のアセスメントシート、センター方式等をユニットごとに活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の過去、現在、将来を予測して、生育歴、社会性を加味しながら、利用者本位の介護計画を家族の意見を聞き、サービス担当者会議などで職員の意見交換のもとに介護計画を作成している。サービス担当者会議に3～5名の出席がある。介護計画に家族のサインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月単位で見直して、家族の了解、承認を得ている。変化が生じた時はその都度、家族などと話し合い計画を見直している。アセスメントシートを活用して予防的視点でモニタリングを実施している。前回よりきめ細かい評価、見直しが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームにおける事業所の多機能性を展開するよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診と訪問看護との連携がとれている。また、家族の協力を得て、かかりつけ医の受診を支援している。風邪など軽い症状の時は近隣の内科受診の協力が得られるようになった。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に重度化した場合の医療体制指針で説明しているが、その後の方針については必要性を感じながら、未着手である。		重度化や終末期に向けた方針を、家族及び医療との連携で作成し、共有化を図ることが期待されます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴、排泄の介助時に個人の尊厳や誇りを損ねないような言葉遣い、声掛けに配慮している。記録等の個人情報の取り扱いは、ともすると職員の共有化が優先されがちであるが、意識の徹底を確認する機会が必要と認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースとその日の希望を尊重することを基本にしている。目が離せない状態が生じた時を優先して支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、BGM、食事の好み、座る位置に配慮している。職員も小グループごとに利用者と共にテーブルにつき、ペースを尊重しながら一緒に食べることを楽しんでいる。できる方には準備、片づけをさりげなく支援している。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、最低でも週2回を基本にしている。回数、時間帯は、一人ひとりの希望に沿うよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ぬりえ等の一律の楽しみごとにならないよう、その人らしい役割、気晴らしの支援を心がけている。いきいきと話しかけて下さる方もいらした。転倒防止とテレビやなじみの小道具等の配置に工夫している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ散歩や戸外に車で外出支援をすることをめざしている。立地と人手不足で現段階では日常的な希望に沿うまでに至っていない。		特に、2Fユニットの利用者の外出支援をホームとしてどう取り組むか、検討、工夫が求められます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中も不審な侵入者防止のため、玄関に暗号式キーロックを採用している。継続的な取り組み課題として検討している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2階の構造上の制約があり、脱出に間に合わないのが火災発生にならないよう、予防することを前提とした消火器の配置をしている。	○	運営推進会議で避難訓練の実施などを重点的かつ総合的検討を期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「健康チェックシート」にて、個人別にバイタル、食事の主・副の摂取量、水分量が把握され、状態に応じた支援につなげている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広い回廊、清潔な浴室、ゆったりとした食堂と居間などがある。手づくりののれんや展示物を掲げ、暖かく、居心地よく過ごせるように工夫された共有空間となっている。特に1階のユニットは、外庭・中庭に面して採光がよく、植物が観賞でき季節感が味わえる構造である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみの家具や仏壇を置き、本人が居心地よく暮らせるように家庭的な雰囲気工夫や配慮がなされている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田
（ユニット名）	ひまわり
所在地 （県・市町村名）	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2975-75
記入者名 （管理者）	石川 富和
記入日	平成 19年 11月 21日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	散歩中の地域清掃。地域行事の参加。散歩コースの清掃をすることで、少しでも町内に貢献できご入居者様がやり甲斐を感じていただく。	○ 運営推進会議の充実。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の散歩中に散歩させて頂く道の地域清掃をしています。ご入居者様もご近所の方に声をかけて頂き、励みを感じておられます。	
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議へのご家族の積極的参加。運営推進会議の定着のご理解。	○ 近隣の当ホームへの親しみやすさを感じて頂き、いつでも気兼ねなく来て頂けるきっかけ作りをしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム玄関先に自動販売機とベンチをホームに置き、どなたでも休んで頂けるように心配りをしている。	○ ご近所からは野菜や果物の差し入れをよく頂いている。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	なかなか行事参加出来ないのので、せめて散歩中の地域清掃をさせて頂いている。	○ 日々の業務に追われ、行事参加は少ない方だと思うので増やして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に対してまでのゆとりが無い。	○	介護職のプロとして高齢者をご自宅で見ておられるお宅の方々に、微力ながらもアドバイス等の支援が出来ればと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を見ることで具体的な支援が見えて来るように思います。大変意義のあるものだと思っております。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第一回運営推進会議を12月中に実施予定しております。		12月初旬に初回の運営推進会議を予定しております。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所在の担当行政でもある神奈川区役所には、イベントの度にボランティアの紹介等で連絡を取らせて頂いております。		これを機にイベント以外でも協力を要請し、援助頂きたく思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご入居者様に「後見人」の話が進みつつある方がおられます。また職員も研修を受ける等の取り組みをし、スタッフ一同関心を寄せている内容でもあります。		スタッフ会議の際等に成年後見人制度の話題が出るが、今後は「勉強会」といった形でスタッフの理解度を増やしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会は持ったことがなかった。	○	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ちたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	退去された方のご家族様とは十分に話し合い、ご利用者様にとって最善の方向性をご家族様と一緒に決める等した。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居様同士のトラブルの際やそれ以外でも居室で静かに気持ちや苦情を聞く機会を設け、希望があればスタッフに周知させている。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「ご報告書」にて報告している。それ以外でも健康状態など特変があれば連絡をその都度行っている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に希望することを率直に伝えて下さるご家族様もおられる。アンケート等により率直なご意見を知り改善点を見出している。	○	運営推進会議の場にも積極的に参加して頂き、意見交換をしていきたい。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の際、様々な意見が提示されている。討議を重ねて提案を反映している。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早番・遅番の他に日勤者が入れるように努力している。ご家族様からの電話にも迅速に対応出来るよう努力している。	○	日勤者を多く配置し、他の方面の業務に取り組みなければならぬが現状人手不足である。その為、常に募集をしている状態である。
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ある一定の職員は変動がなく固定している。ご利用者様にとっては常に馴染みの職員がおり、ご利用者様も安心されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修には常に受講申請をしており、実際に研修を受けた職員が居る。	○	研修案内資料は常に職員に配布しており参加希望者を募っている。今後も研修参加を励まして行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者仲間との勉強会やネットワーク作りをしている。相互に訪問し合う具体的な話も出ている。	○	相互訪問の計画・実現を目指す。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不定期ではあるが飲食会等をしている。時間を見つけては話を聞いている。併せて、認知症理解の勉強会もしている。	○	認知症に対する理解不足からストレスを感じることも多く、理解を深めることで軽減されることもあり続けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現状の業務に追われることなく、技術・認識のレベルアップを図ることで意欲を継続してもらう。その為の研修会・勉強会への参加を促している。	○	人員が十分でない為、実際は学習の時間が確保されていない。また業務への直接的な動機として待遇の向上も上げられる。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回のアセスメントより誠意を持って対応し、傾聴に努めている。それ故に、安心して頂ける体制である事を理解して頂けていると思う。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者様の意見・要望を第一に対応させて頂いている。ご家族様の時間に合わせたのアセスメントや、電話での応対もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見誤ることなく、十分なアセスメントが必要な為、時間を取って情報収集した上で見極めている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時はご入居者様とご家族様が一緒にホームで食事をする機会を設けたり、ご本人様の気持ちを尊重してご本人様のペースで打ち解けて頂けるよう努力・工夫をしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話の中で色々と学ぶ事がある。同窓会でのお話を楽しく聞かせて頂くのも職員は楽しみでもある。		
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の度にご家族様をお呼びし共に楽しんで頂く機会であり、ホームで楽しんでおられるご本人様を見ても頂ける。	○	運営推進会議を充実させる事で一部のご家族様だけでなく、ご入居頂いている全てのご家族様と支え合う関係を築きたい。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様とご家族様との関係は様々であり、関心のあるご家族様と関わりを好まないご家族様もあるので慎重に対応している。	○	関わりを好まないご家族様には、時折来設される機会を活かし理解を深めたい。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族のご協力のもと、出来る限り支援している。	○	ホームとしてはレク・行事等に組み込んだ形で支援していきたい。ご家族の協力も得て、ご本人様の馴染みの方を招待する機会を設けたい。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様同士の関係はほぼ把握している。職員が常に仲に入り支援している。	○	常に摩擦を起こしてしまうご入居者様の対応が難しく孤立しまい勝ちであり、職員も試行錯誤しながら努力を続けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現状の退去者の中に関わりを必要とされるご家族様の要望がない状態である。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントは常にご本人様の意思伝達できる方とはしている。	○	認知症の症状からか元々の生活習慣か、無気力・何もする事を好まない方の真意や少しでも残っている意向・希望を引き出したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当時のアセスメントだけでは不十分であった情報に加えて、ご家族様から情報を得る様にしている。また、ご本人様からもお聞きしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに合ったリズムを把握し、その方に合ったケアを心掛け実行している。健康チェックや心身状態も目敏く観察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議は定期的に、何かあった時にはその都度行い介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは期間に応じて行っている。特変が合った場合は速やかに会議を行い、現状に即した内容で改めて作成している。	○	計画作成者が充実したプランを立てられるよう、担当業務に時間が取れる人員確保をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをまめに記録に残すようにしている。	○	ケアプランに沿った記録が出来るよう焦点をケアプランの目標の記号にして、照合しながら記録する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしてはホーム自体に機能の多様性は求められないが、職員の前向きな業務姿勢からバリエーションあるプログラム提供を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源との協働を積極的には行っていない。	○	今後、前向きに取り組んでいきたい。
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご入居者様に他のサービスの利用を具体的に必要である状況ではないと感じているため、実施していない。		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人を立てなければならないご入居者様の後見人を立てるに当たり、協力を頂いている。		
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医への信頼と、担当医からのご協力を得て円滑な関係が構築できていると思う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医との接点が今のところありません。	○	認知症に詳しい医師に、職員が相談できる関係を作りたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2週間に1度訪問看護師に来て頂き、身体看護全般的にアドバイスをもらっている。日常的にも医療面でいつでも連絡が取れる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	緊急時、また受診時にスムーズに情報が伝達できるよう、介護サマリー・服薬一覧等を整理してある。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	デリケートなテーマである為、ご家族様との話し合いをあまりしていない。またそのような段階のご入居者様も居ない為、実施していなかった。ただ、入居契約時には重度化した場合の医療体制指針を説明させて頂いている。		終末期の方針についてしっかりと決め、共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化してきているご入居者様に対しては、今後の変化に備えてハード面で備品や設備の検討は積極的に行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在までの退去者は、医療の必要な方のため特に留意してはいなかった。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一同、個人情報に関してはその対応に気を配している。	
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ自己決定が出来るように選択肢を挙げたりして、希望を表せる機会を作っている。	
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に散歩や入浴やレク等を話題に挙げ、希望を聞くようにして一人ひとりのペースを大切にしている。	○ その日をどのように過ごしたいか意思決定が難しいご入居者様には選択肢を挙げ、ペースを大切にしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床介助には時間をかけ、服選びからやって頂いている。行きつけの美容院があるご入居者様もいらっしゃる。	
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを告げ、楽しみに思っ下さるようになっている。キッチンからの良い香りも楽しみの一つである。後片付けもお願いしている。	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒の習慣は全くない。おやつ作りはご入居者様と一緒に作る事が多い。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中の排便チェック表から排泄パターンを掴み、リハパンからブリーフへと変わったご入居者様もいらっしゃいます。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。季節に応じてゆず湯・菖蒲湯等を楽しんで頂いています。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の体力に応じて居室で欲になって頂く時間を設けています。ご本人様からの要望でお昼寝もして頂いています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お手伝いや地域清掃から役割を持つ事で、張り合いを持たれていると思います。外出や外食・ショッピング等で気晴らしをしても頂いております。	○	もっと外へ出る機会を増やしていきたいです。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩がてら近くのお店にて個人で使用する身の回りのものを、ご自分のお金を持ち買い物する機会を作っています。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の希望を聞いています。雨天以外は散歩に出かけています。買い物の機会も作っています。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近くであったり半日で動ける範囲では外出はしているが、希望させる場所が温泉や生まれ故郷である事が多くなかなか実施できずにいる。	○	個別対応や遠方にも思い切って出かけられるような企画を立てたい。人員も確保したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には随時対応している。手紙が来る方は少ないが、年賀状の整理や返信はお手伝いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客者の対応には気を使っている。笑顔で迎え笑顔でお見送りし、親身になって傾聴し、ご質問があれば誠意を持って対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、職員全員が理解しており会議の場でも時折取り上げている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には、一部のご入居者様が就寝時ご自身で施錠される他は、外からも開閉可能である。玄関についてはオートロックとなっている。	○	オートロックについては自動ドアにするか否かをご家族様にお聞きした経緯もあり、「安心である」とのお声を頂戴した事もある。更に今後の課題として検討していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングに殆どの方が出て来られている。居室で休まれる方についてはしっかり把握出来ている。夜間は2時間毎の巡回を欠かさない。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・カッター・裁縫道具等は必要な時に職員が責任を持って出し、数を数えて収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故につながらないように、職員一同意識を持って対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルをスタッフ会議で取り上げ、特に夜勤帯一人に対応する為周知してもらっている。	○	様々な急変・事故に対応できるよう定期的な訓練を増やし、確実に身に付けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行い、段取り良く安全に速やかに避難できるように訓練している。	○	夜間の火災時では一人では限界があるため、もっと近隣との良い関係を築き、協力が得られるようにしたい。
#####	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては話し合う機会は多い方だと思う。ご理解は頂いているがすぐに抑圧する方法は取らず、普通に近い生活が出来るよう努力している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員一同とても目敏く注意を払っている。必ず記録に残し、申し送り・要観察を徹底している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一同理解している。排便コントロール等の服薬のタイミングについては、適切な判断をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック表や排便チェック表を用いている。水分補給や体操は、毎日欠かさず行っている。牛乳やヨーグルト類をおやつに取り入れてもいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは全員、毎日行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保のためチェック表がある。事ある毎にお茶等お出ししている。ご入居者様自身が好きな時にお茶を入れて飲める状況にある。	○	ご自身で積極的に摂取されないご入居者様に対しては、介助したり、健康飲料にしたり、好みのものにしたりしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご入居者様、職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。感染症対応マニュアルを職員は周知している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材が届いている。調理用具については常に清潔を保ち、消毒・熱処理等一日の終わりに必ず行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	どなたでも気軽に出入り出来るような工夫が必要。	○	玄関や建物周囲の工夫をもっとやっていきたい。催し物のお知らせや、気軽に見学出来る張り紙。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間についてはお客様からも居心地の良さをお褒め頂いた事があるが、もっと季節感を取り入れたいと思っている。	○	季節の花や果物を取り入れたりする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室があるため独りを楽しむ時間もある。話がしたい時には、テーブルでよく会話されている姿を見る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの方が使い慣れた家具等をお持ちになり、大切な仏壇等も配置されており安心されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調には配慮している。特に排泄や失禁処理時の換気・消臭は速やかに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯や給湯は見守りの中、操作出来る場所にあり、安全を心掛けながら出来るだけ自立できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	傾聴し思いを引き出しゆっくり伝える事で、帰宅願望等の混乱を防ぐ事が出来ている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭が大変日当たりが良く、ティーパーティーを良く行っています。		

・サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	ほぼ毎日のように
		☐	数日に1回程度
		☐	たまに
		☐	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	大いに増えている
		☐	少しずつ増えている
		☐	あまり増えていない
		☐	全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	☐	ほぼ全ての職員が
		☐	職員の2/3くらいが
		☐	職員の1/3くらいが
		☐	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	ほぼ全ての利用者が
		☐	利用者の2/3くらいが
		☐	利用者の1/3くらいが
		☐	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	ほぼ全ての家族等が
		☐	家族等の2/3くらいが
		☐	家族等の1/3くらいが
		☐	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員一同がご入居者様に愛着があり、とても大切に自分の祖父母のように接し、心配し対応している。また、自分の父母のように話をしたり、相談したり

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(№1から№87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(№88から№100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田
(ユニット名)	あじさい
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2975-75
記入者名 (管理者)	石川 富和
記入日	平成 19年 11月 21日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営理念として、事業所独自の理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、一同で理念を唱和することで共有し、実践に向けて努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族様や地域の方へ理念について説明をさせて頂く機会が未だ無い。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方に散歩の途中等でお会いした時はお挨拶をするが、日常的な付き合いには到らない。	○ ご利用者の元気な姿を見て頂いて、閉鎖的なイメージを持たれないよう心掛けたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の情報が入りづらく、なかなか交流の場を持つことが出来ない。	○ 地域との交流の機会を多く持ち、地域の一員になれるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人手不足の中、ご利用者様の援助に努めているが、地域の高齢者への援助に取り組む余裕が持てない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容に全員で目を通すが、具体的な改善は出来ていない。	○	結果を受け入れ、少しずつでも改善し、より良いホーム作りに活かしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行うことが出来なかった。	○	近日中に行う予定。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域担当者との接点を持つことが出来なかった。	○	会議をきっかけに、連携して質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会や話し合う時間が作れない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は持てないが、日々ボディチェックをし外傷の有無を確認する等、虐待防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解頂けるよう、十分な説明をしている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご利用者様の話に耳を傾け、ゆっくり話を聴くよう心掛けている。不満や苦情には早急に対応している。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月報告書をお送りし、ご様子をお知らせしている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご来設の際にはお話を伺い、不満や苦情には早急に対応している。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議において、話し合いの場を設けている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者様の状況に応じた勤務変更は難しい状況だが、常に対応が出来るよう柔軟な姿勢を心掛けている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に際し、様子を伺いながらダメージの無いようフォローしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月々の業務の中で身に付けられることに対しては毎日がトレーニングとなるが、研修の機会が無く知識が深められない。	○	研修を受ける機会を作り、ステップアップをしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流は無い。	○	他施設へ訪問する機会を作り、質の向上につながるものを取り入れたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減は各職員に任せているが、常に職員の不満等の話には耳を傾けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々のモチベーションはご利用者様への思いと、更なる介護業務の充実である。	○	社会的には更なる待遇の向上を訴え、より意欲的に安心して取り組める労働環境を確保していきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者様の話はゆっくり聞くよう心掛けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様の話はゆっくり聞くよう心掛けている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員で話し合い、様々な支援方法を考えている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんか馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居間もなくは不安もあるので、少しずつ馴染んで頂けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のおしゃべりやレクリエーションにおいて、感情を共有し過ごしている。		
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の話を聞き、希望が叶えられるよう努めている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来設した際には、本人と家族でゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族同伴であれば、外出・外泊は自由にして頂いている。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席や会話内容を考慮し、関係の悪化を防止するよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関わりを必要とするご利用者様やご家族様はいないと思われ、今現在関わりを継続している利用者はいない。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望には出来る限り応えている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日様子観察を怠らず、現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見を取り入れた介護計画を立てるようにしている。	○	ご本人様やご家族様との何気ない会話の中で出てきたご要望を取り入れているが、本来なら家族にもサービス会議に出席して欲しい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間・状況に応じて、見直しし計画を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を見直し、状態や言動に合わせた介護計画を作っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームでは様々なご要望に対して、先ずよくお話を伺うことから可能な支援を提供させて頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア(近在の高校)や、定期的の避難訓練での消防署の方々のご支援を頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併用のサービスをご要望とされず、また現状必要とされていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご本人様、ご家族様共に現状必要に迫られておらず協働に至っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力のもと、かかりつけ医の受診が継続できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師に相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常に入院に備えた情報提供を整えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における医療体制指針に打ち出している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師・看護師より介護に出来る助言を頂くこととなっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでのホームでの生活を介護サマリーに十分に反映するよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない プライバシーの保護には注意を払っている。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている 常にご利用者様の話はゆっくり聞くよう心掛け、可能な限りご本人様に決めて頂く。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している ご本人様の希望を出来る限り叶えるよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている ご家族様同伴であれば望まれる店へ行くことは可能だが、現在皆様方は訪問美容師で満足されている。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている 可能な方には準備・片づけをお手伝い頂いている。		
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している 毎日皆様が同じものを召し上がって頂いている。希望があれば、出来る限り応えていきたいが、酒やタバコを喫する方はいない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お声掛けや誘導でトイレにて排泄して頂くよう努めているが難しい。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を希望される方には入って頂き、希望されない方には無理強いをしない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠の為に工夫を職員で考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションやイベント等を催し、楽しんで頂けるよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はトラブルの原因になりやすく、ご本人様がお金を所持することは控えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り散歩は毎日行きたいが、その日の職員体制等により行けない日もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様同伴であれば、外出は自由に行かれる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	先方の都合もあり電話をかけることは無いが、手紙を書かれたら郵送し、届いたものは必ずお渡しする。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来設の際は、ご本人様とゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し行わないようにしているが、安全の為やむを得ない場合もある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊される方がおり、安全の為玄関のカギを外すことは不可能。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	こまめな巡回を心掛け安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	可能な方はハサミや包丁も使って頂くが、必ず見守りしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	センサーを導入する等、転倒や事故の防止に常に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時は訪問看護が24時間対応なので、指示を仰いでいる。	○	全職員が応急手当の知識があると良いと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ご利用者様の状態や設備を考え、安全に全員が避難するのは難しいと思われる。	○	地域との交流を深め、協力を仰ぎたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒のリスクの高い方の歩行時は必ず付き添う等し、自由に歩いて歩いて頂ける策を考えながらケアに努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	様子観察は怠らず、変化に注意を払っている。必ず申し送りにて情報を共有し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は複数の職員でチェックし、薬に対して最大限の注意を払っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んで頂いている。また、体操は日課としている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自分で出来ない方は、お声掛けや介助をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎日チェックし、調味料で好みの味にして頂く等して摂取量を確保している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めは無いが、手洗いは徹底したり、毎冬予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常駐している調理スタッフのもと、管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	現状特別な工夫は無い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全と便宜さが優先され、ゆとりの空間作りに心配りたい。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者様と隣同士座って頂くなど、座席を配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は家族が用意して下さり、ほとんどが使い慣れたものを持ち込まれています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けたり、エアコンの調整は随時行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所の手すりを始め、テーブルの配置等ご利用者様の状態を配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	繰り返しの説明を重ね、ご理解頂きながら過ごして頂く。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭で日光浴をされたり、洗濯物を干して頂いたりしている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
		○	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
		○	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)